

自動車交通の安全の確保、環境の保全を図るため、安全・環境基準の作成、新型自動車の認証制度、検査・点検整備制度、リコール制度など様々な取組を行っています。

自動車の安全基準

交通事故の統計分析、詳細分析を踏まえ、交通事故による死傷者数削減のために必要な安全基準を策定します。



(歩行者の頭部保護基準)

交通事故死者数の3割超を占める歩行者の死者数を削減するため、歩行者の頭部に重大な傷害が発生しないような**ボンネットの構造**を義務づけています。

(衝突被害軽減ブレーキの基準)

高齢運転者の事故防止対策のため、**歩行者も検知する衝突被害軽減ブレーキ**の搭載を義務付けました。(令和3年11月以降の新型車)



自動車の技術基準の国際調和

自動車は国際商品としての価値が極めて高いことから、各国・地域間での円滑な流通を図るため、国連の自動車基準調和世界フォーラムに参加し、**自動車の安全・環境基準の国際調和**に積極的に取り組んでいます。

また、経済成長が著しいアジア諸国に対し、ハイレベルでの政策対話や技術支援を通じて、国際協定加盟を支援しています。

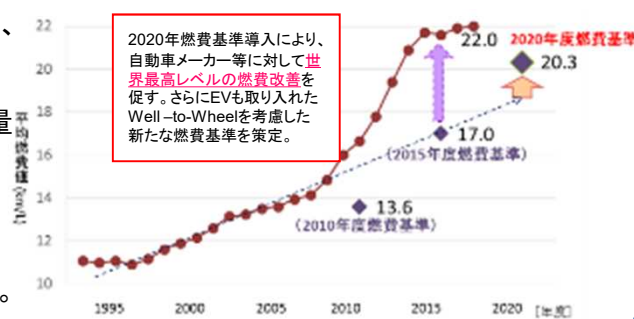


国連の会議における国際基準の提案
(ジュネーブ)

環境に関する基準

大気汚染や地球温暖化の状況を踏まえ、自動車から排出される有害ガスの排出量や燃費に関する基準を策定します。

地球温暖化対策として、**日本全体のCO2排出量の約2割を占める自動車からのCO2排出量の削減**が必要です。このため、**自動車メーカーに対して燃費目標値を設定し、更なる燃費改善を促しています。**



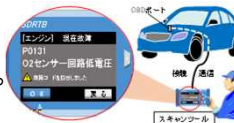
新型自動車の認証

自動車メーカーの製作する自動車について、大量生産・販売される前に安全・環境基準への適合性を確認しています。




使用中の自動車の安全を確保するために...

- 定期的な点検整備、検査の義務付け
- ✓ 高度化する制御装置等の電子的な検査を導入します。
- リコール制度の適切な実施
- ✓ ユーザーやメーカーから情報を収集し、リコール(設計や製造に起因)の疑いのある不具合について技術的検証を実施しています。
- ✓ メーカー監査により、リコール隠しなどの不正を防止します。



自動走行などの新技術が安全・円滑に実用化され、社会に広く受容されるようにするため、自動車メーカーによる技術開発の支援、各種評価制度、普及促進施策を実施しています。

自動走行技術の開発・実用化のための環境整備、将来の利活用の構想

	現在(実用化済み)	2020年まで	2025年以降	
実用化が見込まれる自動走行技術	【レベル1】 ・ 自動ブレーキ ・ 車間距離の維持 ・ 車線の維持 【レベル2】 ・ 特定条件下での自動運転機能(レベル1の組み合わせ)	【レベル3】 ・ システムによる高速道路等一定条件下での自動運転機能(システムの要求によりドライバーが介入)  (トヨタ自動車HPより)	【レベル4】 ・ 限定地域における無人自動走行移動サービス  道の駅における実証実験	【レベル5】 ・ 完全自動走行  (Rinspeed社HPより)
開発状況	一部市販車へ搭載	自動車メーカーが開発中	IT企業等が開発中	課題の整理
政府の役割	・ 実用化された技術の普及促進、正しい使用法の周知 ・ 自動ブレーキ・自動操舵に関する国際基準の策定(議長国として議論を主導) ・ レベル3及びレベル4を実現するための環境整備のため道路運送車両法の改正を実施(2019年5月成立) ・ 自動運行装置等に係る保安基準の策定(2020年3月) ・ 高齢運転者の事故防止等のためのサポカーの普及	・ 技術水準に応じた安全確保措置の検討及び国際基準化 ・ 開発状況を踏まえた制度的取扱いの検討	完全自動走行車に対応した制度の整備 - 安全担保措置 - 事故時の責任関係	

将来の活用例 トラックの隊列走行



新東名における実証実験
ラストワンマイル自動走行



輪島市における実証実験



自動運転車であることを示すステッカーの策定

安全性能に優れた自動車の普及促進

2018 安全性能賞
ASV+
JNCAP

メーカー
車種名

燃費(WLTC) 10-60km/h
10-60km/h
24.5km/l
燃費(WLTC) 10-60km/h
燃費(WLTC) 10-60km/h
燃費(WLTC) 10-60km/h

ASV+
70.5km/l

ユーザーがより安全な自動車を選ぶようにするため、自動車の衝突・予防安全性能評価等を行い、結果を公表しています。



環境性能に優れた自動車の普及促進



環境性能に優れた自動車の普及を促進するため、税の減免措置(エコカー減税)や補助制度(環境対応車導入補助等)を実施しています。



トヨタFCバス (トヨタ・日野) プリウスPHV(トヨタ)

環境対応車を活用したまちづくり

超小型モビリティや電気バスなどの環境対応車は、人口減少・高齢化時代に対応するコンパクトな都市に適した交通手段であるため、災害時にも活躍する環境対応車の普及を一体的に推進しています。



ポンチョEV(日野)